

遺跡を訪ねて 3

岡崎・六勝寺を歩く

(財) 京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

洛東岡崎の地は、平安時代後期に白河法皇や鳥羽法皇によって寺院や院御所がつぎつぎに造営されたところです。今日、その場所を訪ねても往事を偲ぶものはほとんど

ど残っていませんが、発掘調査が進展するにつれてその様子が明らかになってきました。ここでは、今までの主な調査地点と調査年・出土した遺構の写真（1～8）を

紹します。また、散策に適する  
ように石碑や説明板の位置も示し  
ました。これを道しるべに岡崎の  
遺跡を訪ねてみて下さい。思わぬ  
発見があるでしょう。(丸川 義広)





5 草勝寺五大堂跡 建物南西隅の礎石と基壇  
の掘を検出した。1986年

草勝寺跡の説明板



6 草勝寺の建物跡 冷泉通の調査で建  
物基壇や雨落溝の石組を発見。1996年



京都市動物園内にある法勝寺  
の説明板と九重塔跡石碑(上)  
塔跡から出土した花崗岩(下)



二条通から見える法勝寺金堂基礎の高まり



7 二条大路末の遺構 織を敷き詰めた道路と築地の地盤・  
側溝は白河一条坊の復元に欠かせぬ資料である。1991～92年



8 法勝寺跡 東上空から見た発掘中の東回廊。  
金堂跡は調査地の西隣に位置する。1986年

